

■ 創立者「石田謙徳」先生の書



「仰星」

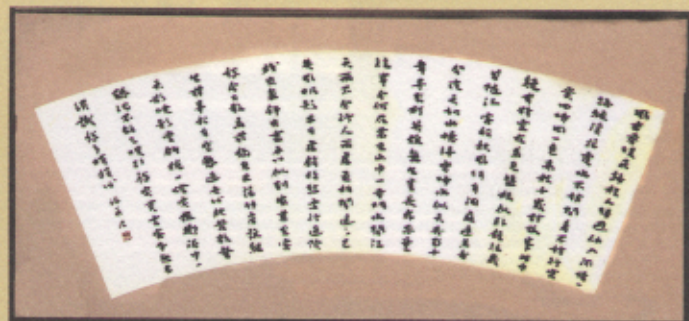
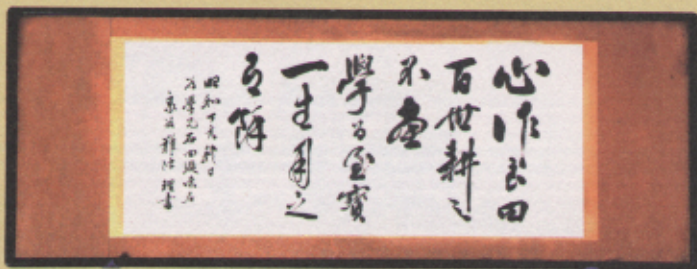
彼我一体
石田謙徳書



「座右の銘」

ここに坐ししも
悟りの峰と
想ひしは
迷ひに降る
始めなりけり
石田謙徳

■ 学園関係者の書



唐雍陶の詩

風香春暖草芽紅 全勝遊仙入洞清
一路疎淡花覆水 不粘閑看不妨行
靈巖四時同一色 高枝千歲對孤峯
此中疑有精靈在 爲見盤根似臥龍
曾隨江客船 秋風明月洞庭邊
爲者今夜天如水 憶得當時水似天
共蜀千平等界村 英雄無主豈長存
思量往事今何在 萬里山中一寺門
水閣江天而不分行 人而處處更相聞
遠遊已失風帆影 子日虛銷惜惡雲
行過險棧出囊斜 出盡平川似到家
萬里客愁今日散 馬前初見米囊花
竹房誰繼生前事 松月空懸過去心
秋聲數聲天欲晚 影堂斜掩一燈深
拋拋泥中一鴨兒 況不能三嘆引愁深
暮下客子無愁易須識 愁多時損心

大洲瑞展氏
(本学園旧教職員)

創立者へ

早稲田大学恩師
難波理二郎氏より
贈られた言葉

心作良田
百世耕之
不盡
學爲屋寶
一生用之
有餘

(大意)

心に良田を作せば
百年之を耕しても
尽きず
學びて屋宝を為せば
一生之を用いて
余有り

昭和二十二年秋日